| 道徳通信<br>**であう・みつめる・ひらく** | 島本町立第二中学校<br>令和8年10月14日（水）<br>第 6 号 |
|---|---|

## 一緒に跳ぶのが平等なのか。

## それとも外すのが思いやりなのか。

文化祭を終え、体育祭が目前に迫ってきました。毎日体育祭練習があり、グラウンドから練習に励む熱い声が聞こえてきています。

ある道徳の教材に『みんなで跳んだ』という有名なお話があります。ある中学校の実話を基にした物語で、体育祭の大縄跳びをめぐるクラスの葛藤と成長が描かれています。体育祭の練習が進む今だからこそ、このお話を通して「みんなが一つのことに挑む意味」を考えてみませんか？

### 『みんなで跳んだ』のあらすじ

体育祭の学年種目「大縄跳び」で優勝を目指して励むクラス。しかし、運動が苦手でなかなか上手く跳べない仲間（A）がいました。

当初クラスは「A には応援係になってもらい、勝つことを目指そう」と決め、練習では学年トップの記録を出すようになります。しかし体育祭の前日、一人の生徒から「やっぱり、全員で跳ばないと意味がないのではないか」と疑問が投げかけられます。

勝ちたい気持ちと、仲間を外したくない気持ち。放課後の教室で互いの本音をぶつけ合う長い話し合いが始まりました。「自分たちが決めるのではなく、A はどうしたいのか」という問いに対し、A 本人が絞り出した言葉は「跳びたい」でした。

体育祭当日、クラスは「全員で跳ぶ」ことを選びます。何度も引っかかり、順位は最下位。それでも、互いに支え合いながら最後に全員で一跳びできた時、クラスの誰もが涙を流しながら喜び合いました。



今、みなさんのクラスでも学年競技や個人種目の練習を重ねる中で、様々な思いが交錯しているのではないでしょうか。

「思うように上手くできない」
「引っかかってしまって申し訳ない」
「勝ちたいけれど、声をかけづらい」
「なかなか速く走れない」



『みんなで跳んだ』の生徒たちと同じように、「勝ちたい」という強い思いがあるからこそ、時には意見がぶつかったり、悩んだりすることもあります。

今年度、島本二中の体育祭の競技には「大縄跳び」はありませんが、どの競技も一人だけが強くても意味がありません。一緒に競技をする仲間への思いやり、競技をする人自身の集中力、周りの応援や歓声―全員の気持ちや思いが一つになって初めて体育祭になります。

上手くできた瞬間だけではなく、つまずいた時にどんな声をかけ合えるか。悔しさや焦りを乗り越えて、どれだけ仲間を思いやれるか。体育祭当日までに生まれる一つひとつの葛藤こそが、みなさんの心を成長させ、互いを信頼し合える関係になるのではないでしょうか。

---

## 落語ライブ in 島本二中 （全学年道徳）

内容項目：我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
日　時　：2026年11月6日（金）
出　演　：喜怒家 哀楽（きどや あいらく）（　　）
　　『社会人落語日本一決定戦』第九代チャンピオン
時　間　：13：30～15：20（5・6時間目）
会　場　：島本町立第二中学校 体育館
入 場 料：無料

※保護者の参観も可能です。

